



2021年度日本語教育学会春季大会

2021(令和3)年5月22日・23日／オンライン開催

開会式・授賞式は、事前のオンデマンド配信のみで行います。

目 次

開催概要／目次	2
大会日程	3
開催のご挨拶	4
一般公開プログラム	6
発表一覧：パネルセッション	7
発表一覧：口頭発表	8
発表一覧：ポスター発表	12
同時開催イベント	14

◆今大会の実施方法について◆

2021 年度日本語教育学会春季大会は、全面的にオンライン開催となります。

・学会発表については、以下の 3 つの方式の組み合わせにて行います。

- ①事前のオンデマンドによるビデオ配信・資料閲覧：2021 年 5 月 14 日（金）～ 6 月 6 日（日）
（パネルセッション：ビデオ 60 分、口頭発表：ビデオ 20 分、ポスター発表：ポスター掲示）
- ②事前の指定フォームによる質問：2021 年 5 月 14 日（金）～ 5 月 21 日（金）正午
- ③大会当日の Zoom による同時双方向型の質疑応答：2021 年 5 月 22 日（土）・23 日（日）
（パネルセッション：30 分、口頭発表：20 分、ポスター発表：40 分）

※当日は質疑応答のみで、ビデオ再生の時間は設けておりません。

・その他のプログラムの実施方法については、本プログラムおよび学会ウェブサイト「春季大会・秋季大会」

のページ（<http://www.nkg.or.jp/jissensha/taikai>）にて、今後公開される告知等をご確認ください。

・オンライン開催における有料プログラムへのご参加は、事前参加登録のみとなります（当日受付は行いません）。

・無料プログラムへのご参加は、事前申込は不要です。参加方法については、学会ウェブサイトをご参照ください（4 月中旬に詳細を公開予定）。

◆主催：公益社団法人日本語教育学会

◆大会参加費（有料プログラム）：

【事前登録 ※お支払い時に手数料がかかります】

会員 3,500 円

会員（学生証をお持ちの方）2,000 円

会員でない方 5,000 円

【当日受付】オンライン開催では行いません。

◆事前登録期間：2021 年 4 月 16 日（金）～ 5 月 10 日（月）

※例年より締切が早い因此ご注意ください。

◆問合せ先：

E-mail: taikai-office@nkg.or.jp（下記を除く大会に関する問合せ先）

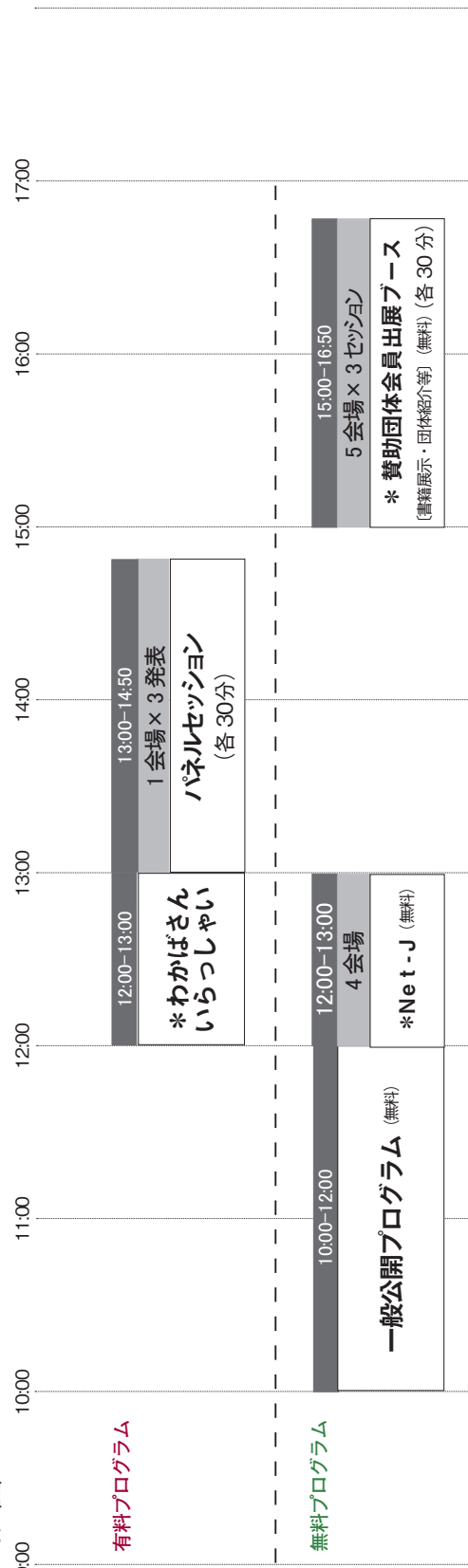
nkg.taikai@gmail.com（オンライン参加に関する技術面の問合せ先）

TEL: 03-3262-4291

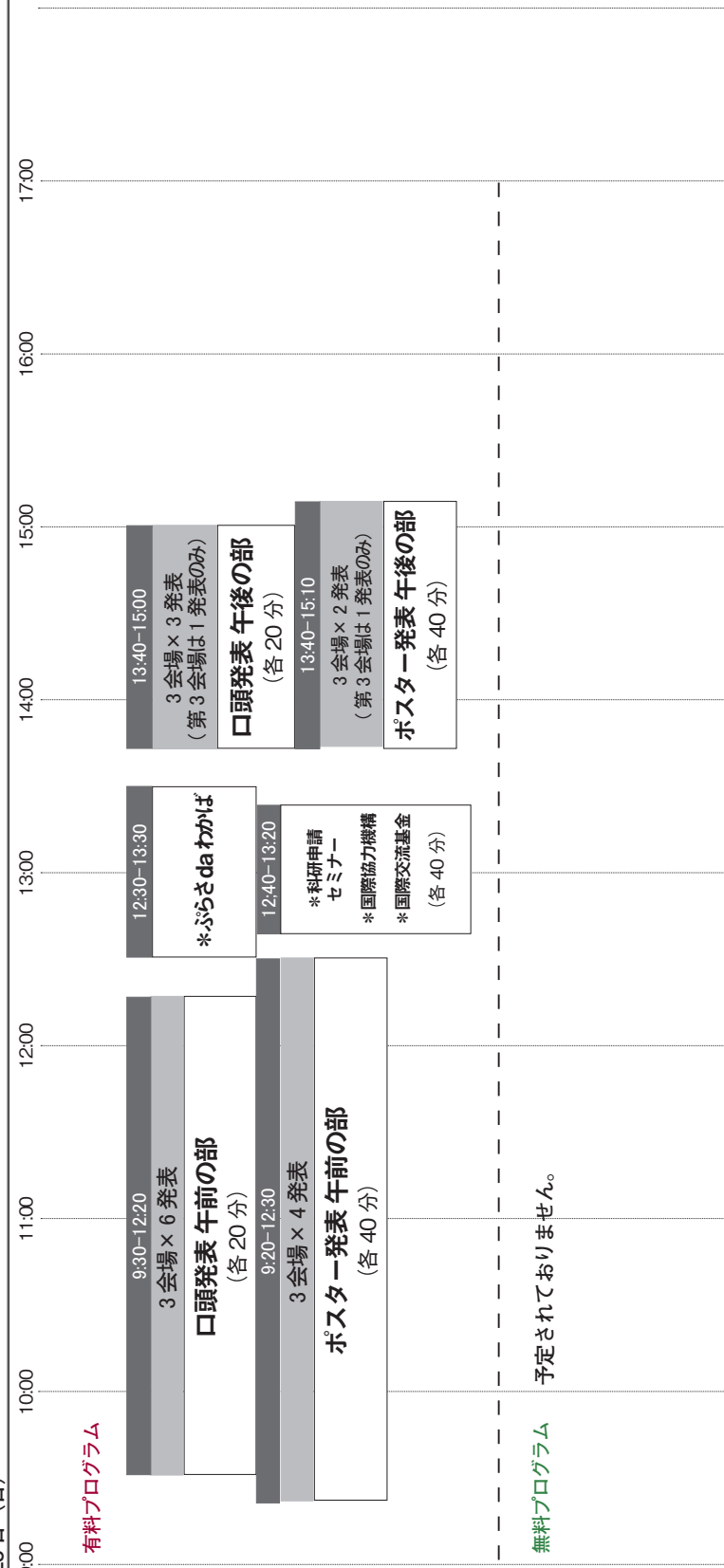
◆大会日程◆

5月22日(土)

* 印のイベントの概要は、14～18ページをご覧ください。



5月23日(日)



開催のご挨拶

公益社団法人日本語教育学会では、次の3つの社会的研究課題を設定し、2017年度より各委員会が連携し、取り組んでまいりました。

公益社団法人日本語教育学理念体系

http://www.nkg.or.jp/pdf/hokokusho/nkg_rinen_2017-0407.pdf

- 課題1： 日本語教育学の「学問的専門分野」としての体系的枠組みの構築
- 課題2： 日本語人材・複言語人材育成のための日本語教師養成・研修の理念と枠組みの再構築
- 課題3： 多様なキャリア形成のための日本語教育内容の体系的再編成

課題1は、次の通りです。

日本語教育関係者が日々研究・実践している多様な課題や領域の全体を「学的領域」として改めて捉え直し、その包括的領域内の個々の課題や領域の相関関係を体系的に整序して、「新たな学問的専門分野 (discipline) としての日本語教育学」の「学としての概念的輪郭」を描出・記述する。

「日本語教育学」と言えば、誰もがおよそその研究・実践の領域的輪郭を描くことができ、多様な諸活動を支える中核的な基礎概念・方法論的立場・評価基準などを緩やかに共有することができ、「人をつなぎ、社会をつくる」ための通用性のある「固有の学的専門性」を主張できることを目指す。

課題2は、次の通りです。

日本語教育の研究者・教育者・実践者の育成方法、教育内容、教育体制の多様化と深化を見据えた上で、日本国内外の人材育成の在り方を抜本的に再検討する。

高等教育段階における「学術的・専門的な日本語運用能力」、地域社会における「日常生活的な日本語運用能力」、初等中等教育段階における「児童・生徒の自我の成長を支え教科学習に参加できる日本語運用能力など、多様な「日本語運用能力」の育成・強化に関する現状・問題点・課題・必要性（ニーズ）を摘出・確認し、多様な日本語教育を担う柔軟で即応力のある日本語教師に求められる知的・技術的・人間的な素養について再検討する。

日本にとって地理的に近いアジア地域や世界各地の日本人の移住・集住地域などを軸にしつつ広く諸外国・諸地域における日本語教育の在り方について、また、それぞれの地域における日本語人材や複言語人材の養成・研修の在り方について地政学的な観点から再検討し、相互交流・相互理解そして共生社会形成の素地作りについて、議論を喚起していく。

課題3は、次の通りです。

研究者や高度職業人として必要なコミュニケーション能力育成、「生活者としての外国人」の職場や地域社会におけるコミュニケーション能力育成、また年少者を含む生活者のキャリア形成やキャリアアップのための包括的教育・学習支援の在り方を研究・開発する。

同時に、そのような日本語人材・複言語人材の多様な組織や日本社会への受け入れによる社会的インパクトについて、また少子高齢化する日本社会の活性化への将来的影響等についても研究し、併せて多文化・多言語を背景とする人々をつなぎ、多元的な共生社会を創っていくための日本語教育施策の在り方と意義についても議論を喚起する。

課題1～3は繰り返し順に取りあげられ、1つの課題は「春季大会発表募集テーマ」「春季大会一般公開プログラム」「学会誌特集テーマ」が連動することにより、具体となります。

2021年度春季大会においては、課題2から「日本語教師に求められる資質・能力をめぐる課題」をテーマとして設定し、発表（パネルセッション、口頭発表、ポスター発表）を募集いたしました。

2019年に「日本教育の推進に関する法律」が公布、施行され、日本語教育人材の育成・研修や日本語教師の資格の在り方に関する検討が進められています。また、コロナ禍を受けて日本語教師の在り方に新たな課題も生じています。一方、日本語学習者は、生活者としての外国人、児童生徒、留学生、就労者、海外における日本語学習者など多様であり、その多様なグループは、社会情勢の中で常に変化し続けています。このような動的状況の中で、日本社会さらには世界で重要な役割を担う日本語教師には何が求められるのか、知識や技術のみならず、意識や姿勢にまでその検討対象を広げて議論できればと考えます。

また、一般公開プログラムは「日本語教育の樹よ育て―根を深く張り、梢を見あげる―」というテーマで展開されます。これは日本語教育という分野が「根を深く張り、梢を見あげる」ような大木に育つには、様々な資質・能力が育っていかなければいけないという前提のもと、活動拠点が異なる登壇者の皆さまに資質・能力の多様性を語っていただくという趣旨となっています（詳細は次ページをご参照ください）。

新型コロナウイルスの影響が長期化し、今回の大会もオンラインでの開催となりました。一方で、昨年の秋季大会には全国47都道府県と36か国・地域から多くの方にご参加いただき、オンライン開催ならではの利便性も感じていただけたかと思います。今回も、オンライン環境にて集い、本学会が取り組む社会的研究課題をはじめ、現在の日本語教育の動向について、意見交換・情報共有を行う機会となれば幸いです。

公益社団法人日本語教育学会会長 石井恵理子

* 無料でご参加いただけます。

根を深くはり、梢を見あげる 日本語教育の樹よ育て

5月22日（土）10:00～12:00

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

私たちの日本語教育学会は、「人をつなぎ、社会をつくる」ことを使命とする学会です。様々なテーマとトピックに渡る学会の活動分野は、大きな樹にたとえることができるかもしれません。その樹のあちらこちらで、私たち言語教育研究者・実践者たちは、頭を悩ませ、実践やデータに向き合い、悩み、よりよい明日を夢見ています。2019年には、日本語教育推進法が成立しました。日本語教育学の樹は、より深く広く根をはり、より高く梢を伸ばしていかなければなりません。

本プログラムでは、学会の活動範囲を象徴的に描く樹形図を示したあとで、登壇者の方々に、それぞれの研究・実践での目的と夢、夢をかなえるための資質について話していただく予定です。みなさまそれぞれの近くに、あるいは遠くにあるかもしれない枝を、花を、そしていつかみのるだろう実を、感じられる会にしたいと願っています。

登壇者（登壇順）：

藤森弘子氏（帝京大学、東京外国語大学名誉教授）
土井佳彦氏（日本福祉大学）
金 孝卿氏（早稲田大学）
嶋田和子氏（アクラス日本語教育研究所代表理事）
神吉宇一氏（武蔵野大学、日本語教育学会副会長）
砂川裕一氏（群馬大学名誉教授）

司会：

徳弘康代（名古屋大学）
柳田直美（一橋大学）

* 本プログラムは Zoom ウェビナーにて行います。開催近くになりましたら日本語教育学会ウェブサイト等で URL をご案内いたしますので、当日直接オンライン会場にお越しください。事前予約不要、当日先着 1,000 名様とさせていただきます。

パネルセッション—質疑応答—

第1部 [13:00 ~ 13:30 (30分)]

第1会場

①★

新しい時代の日本語教育人材育成のための連携・意義・教育観—「日本語教師教育者ネットワーク」の活動から—

嶋津百代 (関西大学)
北出慶子 (立命館大学)
杉本香 (大阪大谷大学)
中谷潤子 (大阪産業大学)

第2部 [13:40 ~ 14:10 (30分)]

第1会場

②

なぜ「ボランティア」なのか—地域日本語教育の基盤について考える—

富谷玲子 (神奈川大学)
松岡洋子 (岩手大学)
杉本篤史 (東京国際大学)

第3部 [14:20 ~ 14:50 (30分)]

第1会場

③

ナラティブによる実践の可視化は何を生み出すのか—評価と社会関係構築の結節点—

南浦凉介 (東京学芸大学)
三代純平 (武蔵野美術大学)
中川祐治 (福島大学)
石井英真 (京都大学)

口頭発表—質疑応答—

午前の部〔9:30～12:20（各20分）〕

第1会場

司会：

【①～③】伊藤秀明（筑波大学）

【④～⑥】服部明子（三重大大学）

9:30～9:50

①
学部留学生の日本語における「分かったフリ」とそれをめぐる言語不安—インタビュー調査からの一考察—

祖父江カースティ（日本福祉大学）

10:00～10:20

②
中国人日本語学習者における講義の理解に及ぼす聴解目的の影響

伊藤賀与子（広島大学大学院生）

10:30～10:50

③
学習者自身がふりかえる大学学士課程でのライティングを通じた学び—留学生・日本語母語話者大学生へのインタビューをもとに—

大島弥生（立命館大学）

11:00～11:20

④
高度外国人材に求められるオンライン業務スキルに関する実態調査—CEFR 2018に基づき開発したCan-do statementsを用いて—

葦原恭子（琉球大学）、塩谷由美子（東京富士大学）
島田めぐみ（日本大学）、奥山貴之（沖縄国際大学）
野口裕之（名古屋大学名誉教授）

11:30～11:50

⑤
介護の日本語 Can-do ステートメント（KCDS）に基づいた教材開発

加藤真実子（東京都立大学）、奥村恵子（同）
西郡仁朗（同）

12:00～12:20

⑥
ベテランボランティアは日本語支援ボランティア養成講座への大学生の参加をどう意味づけたか

内山喜代成（名古屋学院大学）
村田竜樹（名古屋大学大学院生）
松本美紀（星城大学）、梶原彩子（名古屋学院大学）

第2会場

第3会場

	司会： 【⑦～⑨】水野晴美（国際日本語普及協会） 【⑩～⑫】三宅和子（東洋大学）	司会： 【⑬～⑮】西口光一（大阪大学） 【⑯～⑰】浜田麻里（京都教育大学）
9:30～9:50	⑦ IJAS の依頼のロールプレイにおける中級・上級日本語学習者の配慮の表し方—発話の機能に着目して— 須賀和香子（国立国語研究所） 細井陽子（山野日本語学校）	⑬★ 日本語教師の資質・能力としての態度について考える—構成主義的学習観に基づく教師養成科目での大学生の理解の過程に着目して— 近藤有美（名古屋外国語大学）、近藤行人（同） 宮本真有（同）、櫻井省吾（同）
10:00～10:20	⑧ 接触経験が多い母語話者は会話を通して非母語話者の日本語レベルの違いをどのように判断しているか 張瀟尹（一橋大学大学院生）	⑭★ 日本語教員の「態度」を身につけるケース学習とは—受講生のアンケートによる検討— 鴈野恵（筑紫女学園大学）
10:30～10:50	⑨ ベトナム人日本語学習者の長音知覚における困難点—長音のアクセント型と語中の位置に着目して— 田中真由美（日本福祉大学）	⑮★ 大学生が見据えるライフコース・キャリアにおける日本語教師という職業—日本語教育課程の学生が新卒で日本語教師に進まないことを決めるまでのプロセス— 北出慶子（立命館大学）
11:00～11:20	⑩ カタカナ語とその類義語の文脈による使い分け—質問紙調査の結果から— 山下直子（香川大学） 畑ゆかり（穴吹ビジネスカレッジ） 轟木靖子（香川大学）	⑯★ リモート時代の地域日本語教室に関する調査研究 中井延美（明海大学）
11:30～11:50	⑪ 人称表現における複数性と不定性—「人々」の誤用をめぐる— 牧彩花（東京国際大学）	⑰★ 多文化共生をめざす「生活者としての外国人と日本人」の協働の場における日本語教師の在り方—日本語学習支援者研修から考える— 西山陽子（国際活動市民中心） 萬浪絵理（同）
12:00～12:20	⑫ 日本語学習者による条件表現ナラの使用傾向—「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」を資料として— 奈良夕里枝（フェリス女学院大学）	⑰★ 外国につながる子どもの学習支援サービスラーニングとICT活用 川田麻記（桜美林大学） 横溝亮（横浜市立並木第一小学校）

口頭発表—質疑応答—

午後部 [13:40 ~ 15:00 (各 20 分)]

第 1 会場

司会：
【①⑨～②①】西谷まり（一橋大学）

13:40 ~ 14:00

①⑨
「対のある自他動詞」の練習・学習を支援するシステムの開発—5 週間のオンライン学習における効果—

沖本与子（一橋大学大学院生）

14:10 ~ 14:30

②⑩
意見述ベタスクの認知的複雑さは言語産出にどう影響するか—中国人日本語学習者と日本語母語話者の比較から—

金銀姫（神田外語大学大学院生）

14:40 ~ 15:00

②①
認知負荷が日本語学習者の発話に与える影響—口頭流暢性の客観指標に注目して—

陸嘉良（東京工業大学大学院生）

佐藤礼子（東京工業大学）

★印は、今大会のテーマ「日本語教師に求められる資質・能力をめぐる課題」に関連した発表です。

第2会場

司会：
【②②～②④】松岡洋子（岩手大学）

13:40～14:00

②②
日本語学習者の類似表現の表現選択と表現意図
に関する一考察—作文とインタビューの分析を通じ
て—

董芸（国立国語研究所）

14:10～14:30

②③
在住外国人のための求職場面の日本語の研究
—小規模コーパスとテキストマイニングによるアプ
ローチ—

亀井信一（早稲田大学大学院生）

14:40～15:00

②④
日本語教室における学習者の「つぶやき」の機
能と特徴—初級レベルの事例—

加藤伸彦（東海大学大学院生）

第3会場

司会：
【②⑤】嶋田和子（アクラス日本語教育研究所）

②⑤★
日本語学校・大学・地域において日本語教育コー
ディネーターが発揮している能力とは

御館久里恵（鳥取大学）

★印は、今大会のテーマ「日本語教師に求められる資質・能力をめぐる課題」に関連した発表です。

ポスター発表—質疑応答—

第1会場

午前の部〔9:20～12:30（各40分）〕

9:20～10:00

①★

内容言語統合型学習（CLIL）によるオンライン海外実習の試み

奥野由紀子（東京都立大学）、
 神村初美（ハノイ工業大学）
 趙鑫（東京都立大学大学院生）、姫宇禾（同）
 陳永梅（同）、エネザンバラ（同）

10:10～10:50

②★

オンライン双方向授業が自律学習を高める可能性についての一考察—中級学習者へのアンケートの結果から—

倉八順子（東京富士語学院）

11:00～11:40

③★

「オンラインによる日本語支援」のための大学生サポーター養成カリキュラムの開発—日本語指導が必要な児童生徒に対する持続可能な学習支援を目指して—

入山美保（筑波大学）
 井上里鶴（つくばにほんごサポート）

11:50～12:30

④★

プロジェクト・ワーク型日本語教育実習で養成できる資質・能力とは

杉本香（大阪大谷大学）
 松岡里奈（大阪大学）

午後の部〔13:40～15:10（各40分）〕

13:40～14:20

⑬★

中国語を母語とする日本語学習者が日本語教師になるまでのキャリア形成に影響を及ぼす要因—ライフストーリーからわかる日本語教育実習の重要性—

井元麻美（京都外国語大学大学院生）

14:30～15:10

⑭★

多文化共生をめざす「生活者としての外国人」のための基礎日本語クラスのあり方—教材「わたしを伝える日本語」から考える—

萬浪絵理（千葉市国際交流協会）

第2会場

9:20 ~ 10:00

⑤

日本語音声研究の動向—学会誌『日本語教育』および学会発表の分析から—

木下直子（早稲田大学）
高橋恵利子（防衛大学校）
大久保雅子（東京大学）

⑥

論理的文章の自動評価に関する研究—アカデミック・ライティングへの貢献を目指して—

李在鎬（早稲田大学）、伊集院郁子（東京外国語大学）
青木優子（東京福祉大学）、長谷部陽一郎（同志社大学）
村田裕美子（ミュンヘン大学）

⑦

熟語の構成に基づく日中同形同義語リストの構築

宣方園（京都大学大学院生）

⑧

日本語の感情表現における意味と形式—サ変感情動詞に注目して—

清水麻美（早稲田大学大学院生）
李在鎬（早稲田大学）

⑮

日本語学習者の「(よ) うと思う」の使用文脈—I-JAS の分析を通して—

三好優花（一橋大学大学院生）

⑯

習熟度別に見た学習者の「ちょっと」の使用の分析

藤田裕一郎（朝日大学）
立部文崇（徳山大学）

第3会場

⑨

日本語指導が必要な児童生徒のための遠隔支援における地域連携モデル—茨城県グローバル・サポート事業の試み—

澤田浩子（筑波大学）
井上里鶴（つくばにほんごサポート）
松崎寛（筑波大学）、入山美保（同）

⑩

幼児の物語文の分析—結束性と局所構造—

稲葉みどり（愛知教育大学）

⑪

日本語非母語話者の学校配布プリントの理解向上にイラストがどのような効果を生み出すのか

檜原ゆかり（早稲田大学大学院生）

⑫

仲介行動に伴う責任を味わうための試み—インタビュー雑誌作成プロジェクトで学習者が感じたこと—

濱田典子（秋田大学）

⑰

日本語初級学習者はどのように宿題を行っているか—「ありのまま」を撮影したビデオの観察—

古田梨乃（国際教養大学）、三和秀平（信州大学）
樋渡康敬（国際教養大学）、橋本洋輔（同）

わかばさんいらっしやい

〔5月22日（土）12:00～13:00〕

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育活動に関わり始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方など、日本語教育学会ビギナーの方たちのことです。

わかばさんが大会に参加するときは、「どんな人が参加してるんだろう？」「どの発表を聞けばいいんだろう？」など、少し不安だったり、ちょっと勇気が必要だったり…。学会のセンパイたちもみんな同じ経験をしてきました。「わかばさんいらっしやい」では、事前に配信する動画で、大会のしくみや聞く発表の選び方、その他大会の楽しみ方をご説明します。大会当日は動画の内容について質疑応答を行なった後、交流会を開催し、わかばさん同士でお話できる場も用意しています。新しい出会いがあると大会はきっともっと楽しくなるでしょう。参加希望の方は大会参加登録後、5月15日までに専用の申し込みフォームでお申し込みください。たくさんのわかばさんのご参加をお待ちしています。

日本語教育研究・実践ネットワーク(Net-J) 研究会紹介ブース

* 無料でご参加いただけます。

〔5月22日（土）12:00～13:00〕

主催：公益社団法人日本語教育学会 学会連携委員会 Net-J 部会

日本語教育研究・実践ネットワーク（Net-J）は、アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会、多文化共生社会における日本語教育研究会、日本語音声コミュニケーション学会、JSL 漢字学習研究会、ビジネス日本語研究会、看護と介護の日本語教育研究会、日本語教育学会（事務局）の7団体で組織されたネットワークです。本ブースでは、これらの研究会が、各分野の最新情報や、各研究会の取り組みについてご紹介します。また、当該分野の研究・実践に興味のある方の、個別の相談に乗ることも可能です。ぜひ、関連分野の研究・実践の取り組んでいる方、また関連分野の興味のある方のご来場をお待ちしています。Zoomで直接ご質問やご相談をお受けいたします。加盟団体の詳しい情報については各団体のサイトをご覧ください。

また、Net-Jでは、新たな加盟団体を随時募集しています。興味のある団体は、日本語教育学会事務局までご相談ください。

* 事前申込は不要です。参加方法は4月中旬に学会ウェブサイトで公開予定です。

賛助団体会員出展ブース

* 無料でご参加いただけます。

〔5月22日(土) 15:00～16:50〕

出展：公益社団法人日本語教育学会 賛助団体会員

本会には「賛助団体会員」「賛助個人会員」という会員種別があり、このうち「賛助団体会員」として全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO 団体等、53 団体が入会しています。(2021 年 3 月現在)

賛助団体会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本会の運営の促進のために多大なご協力をいただいています。

「賛助団体会員出展ブース」では、各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材の紹介等を行います。当日の双方向型オンラインセッションのほか、オンデマンドによるビデオ配信、資料配信も行っておりますので、ぜひご覧ください。

* 事前申込は不要です。参加方法は 4 月中旬に学会ウェブサイトで公開予定です。

* 出展の詳細は、18 ページをご覧ください。

ぷらさ da わかば

〔5月23日(日) 12:30～13:30〕

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

この学会に集うだれもが最初は「わかば」マークをつけて日本語教育の実践や研究に関わり始めました。日本語教育の世界で自分の先を歩いている「センパイ」と交流する機会を持つことができれば、ちょっとしたヒントをもらったり、悩みや疑問について相談したりできるかもしれません。とはいえ、自分からセンパイに話しかけることは、なかなかむずかしいことではないでしょうか。そんな「わかば」な人のための企画が「ぷらさ da わかば」です。少人数（1～3 人）で 1 人のセンパイを囲み、気楽に話すチャンスです。研究や実践の話をしたり、キャリアの相談をしたり、センパイの経験談を聞いたり、普段なかなか出会う機会のないセンパイと自由に対話をしてみませんか。今大会の「ぷらさ da わかば」は、Zoom のブレイクアウト機能を使用し、オンラインで実施します。参加希望の方は大会参加申し込み後、「ぷらさ da わかば」のチラシからお申し込みください。募集期間は 4 月 9 日～5 月 9 日、定員 21 名、先着順で、定員に達した時点で締切です。センパイのプロフィールなどの詳細はチラシまたは学会ウェブサイトをご覧ください。

科研申請アドバイスセミナー 「日本語教育学における科研の今とこれから」

〔5月23日（日）12:40～13:20〕

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

科学研究費助成事業として研究分野「日本語教育」で採択される研究を増やすことを目的とした企画です。「日本語教育学における科研の今とこれから」というテーマで、科研申請のための基本情報と科研費採択経験者や審査委員経験者等からの具体例を交えた情報を提供します。

科研費に採択されるためには、テーマの新規性や方法論の妥当性、申請書作成過程におけるルール遵守がきわめて重要です。この企画では、科研費申請のための注意事項、採択されるためのコツを解説し、参加者の理解を深めることを目指します。

オンラインセッションでは、最近の日本語教育学の領域やテーマ、および、採択実績のある具体的なテーマを踏まえ、今後の日本語教育学の発展に資する研究テーマについて、参加者がブレインストーミングできる機会を提供します。また、参加者からの質問を受け付ける時間を設け、参加者間での疑問点と解決策を共有します。

* 実施方法は、学会発表と同様です（2ページ参照）。

JICA 海外協力隊： 2021 年春募集と今後の日本語教育隊員の派遣

〔5月23日（日）12:40～13:20〕

主催：独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、派遣中の JICA 海外協力隊は 2020 年 3 月から 4 月にかけて一時帰国し、オンライン等を活用しながら、任国に対する活動、国内での活動を行ってきました。

このような状況下で 2020 年は新たな JICA 海外協力隊の募集・選考を行うことができませんでしたが、このたび JICA 海外協力隊（長期派遣）2021 年春募集を実施することになりました（募集期間：2021 年 5 月 20 日（木）～6 月 30 日（水）日本時間正午締切）。

この 2021 年春募集では日本語教育に関し、どのような国や機関からどのような隊員派遣要請があるのか、国内外の状況の変化を踏まえ、今後はどのような方針で隊員を派遣し、隊員の活動内容はどのように変化することが予想されるのかについてお話しします。

その他、企業・自治体・大学との連携による派遣、現職参加促進制度・現職教員特別参加制度、帰国後のキャリア支援制度等、JICA 海外協力隊を送り出す側の皆様に知っておいていただきたい制度についてもご紹介します。

* 本プログラムは、当日の Zoom ミーティングのみで行います。

国際交流基金事業紹介： 「いろどり日本語オンラインコース」について

〔5月23日（日）12:40～13:20〕

主催：独立行政法人国際交流基金

国際交流基金（JF）は、政府の外国人材の受入・共生に向けた政策の一環として、主としてアジア諸国を対象とし、①日本語能力判定テスト JFT-Basic の実施、②生活日本語のための Can-do・教材等の開発・普及、③海外日本語教師の育成、及び④海外日本語教育活動強化支援、などの新たな取組を実施しています。

2020 年度秋季大会では、②の「JF 生活日本語 Can-do」と教材『いろどり 生活の日本語』について、ご紹介しました。

今回は、日本の生活場面で必要な日本語を、動画や、豊富なイラスト、音声などを使って総合的に自学自習できる「いろどり日本語オンラインコース」（2021 年 5 月より、初級 1（A2）コースの英語版、日本語版を常時無料開講）について、ご紹介します。当日は、このコースの概要や特徴、使い方について、実際のコース画面をお見せしながら、ご紹介します。

* 実施方法は、学会発表と同様です（2 ページ参照）。但し、事前の質問受付は行いません。

第1部 [15:00 ~ 15:30]

第1会場	第2会場	第3会場	第4会場
株式会社 アスク出版	株式会社 くろしお出版	公益財団法人 日本漢字能力 検定協会	コミュニカ学院

第2部 [15:40 ~ 16:10]

第1会場	第2会場	第3会場	第4会場
株式会社 ひつじ書房	国書刊行会／ 国書日本語学校	一般財団法人 日本国際協力 センター	株式会社 ワールドینگ

第3部 [16:20 ~ 16:50]

第1会場	第2会場	第3会場	第4会場
株式会社 三修社	株式会社 ジャパントイズ 出版	一般社団法人 Global8	公益社団法人 国際日本語 普及協会

動画配信のみ

学校法人 江副学園 新宿日本語学校	キャプラン株式会社 Jプレゼンスアカデミー 事業グループ 日本語教育研修	株式会社 大修館書店	株式会社 スリーエーネットワーク
学校法人 長沼スクール 東京日本語学校	株式会社 ラーンズ	有限会社 Jリサーチ出版	

資料配信のみ

株式会社 インターカルト 日本語学校	株式会社 凡人社	株式会社 研究社
--------------------------	-------------	-------------

* 事前申込は不要です。
参加方法は4月中旬に学会
ウェブサイトで公開予定です。